



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

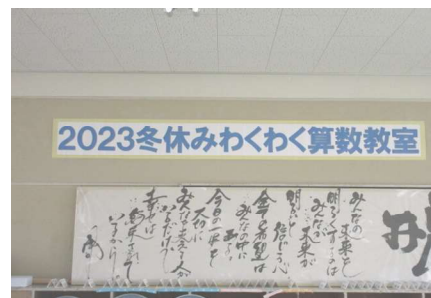
第12号

2023年12月24日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

「2023冬休みわくわく算数教室」初日

12月24日(日)、「2023冬休みわくわく算数教室」が始まりました。クリスマスイブでしたが、子どももSPさんも10名以上が参加してくれていました。「クリスマスイブだし、日曜日だし、冬休みが始まったばかりだし……子どもたちはどんな雰囲気かな？」と少し心配していましたが、SPさんたちの温かい出迎えと言葉がけで、すぐに教室が笑顔溢れる“わくわく”した雰囲気に包まれていました。「クリスマスのクイズカード」を用意(自作)して持ってきてくれたSPさんもいました。ちょっとしたサプライズでしたが、このカードを使って上手に子どもたちを勉強に向かわせてくれていました。算数も一生懸命取り組み、クイズも楽しむ。「明日からの算数教室も楽しみになる」、そんな子どもたちの姿が見られました。最高の初日スタートだったと思います。



この「わくわく算数教室」は、「算数嫌いをなくし、算数を学習することの楽しさを味わわせる」ことをねらいとしており、SPさんには事前に「活動の手引き」をお渡しして主旨をよく理解してもらった上で取り組んでもらっています。では、“算数を学習することの楽しさ”とはどうしたら味わえるのでしょうか。算数に限らずですが、「わかる・できる」が1つのポイントだと思います。今日の算数教室では、SPさんたちがなんとか子どもたちが「わかる」ように工夫を凝らしてくれていました。



ある児童が、百分率の学習でつまづいていました。算数教室終了後にその児童を担当したSPさんに「苦勞していたね。どこで困っていた？」と聞いてみたら、「今回取り組んでいた単元より、もっと前の単元でつまづいていると思い、3年生の単元に立ち戻って取り組んでみました。」と話してくれました。その子の様子をしっかりと見てくれたから気付くことができたのだと思います。分からない問題が出てくると、ついつい目先のその問題を解くことに力が入ってしまいます。でも、実はもっと前の段階からつまづいているということがあります。普段の授業や家で勉強しているときに、子どもたちが自分で気付いて前の段階に立ち戻れることは難しいです。でも、それができるのが「わくわく算数教室」です。SPさんがいるからできること、SPさんがいてくれるから頑張れることだと思います。

まだまだ算数教室は始まったばかり！SPさん自身も楽しみながら、子どもたちの様子をじっくり見て、どんな支援ができるのかを考えて取り組んでもらえたらと思います。残り4日間もよろしくお願い致します！



←出迎えと受付の様子

SPさんは、昇降口で子どもを出迎え、受付をし、指定席に子どもたちを案内します。この丁寧で手厚い対応が子どもたちの安心感を生んでいます。安心感があるから、勉強に向かうことができます。

教室開始前→

算数教室が始まる前から、子どもとの関係づくりをするSPさんたち。子どもたちはすでに楽しそうです。友達に会える、SPさんに話を聞いてもらえる、子どもたちにとってそんな楽しい場所にもなっています。

